

## カワバタモロコの里親プロジェクトⅡ

### あたらし 羽曳野市駒ヶ谷地区の 新池 池干し



平成 27 年 11 月 3 日カワバタモロコの生息地域外保全拠点として活用が進められている新池の池干しに参加しました。

前日の雨のため池の水位が下がらず、2 日の夕方から当日のお昼間まで 2 台のポンプでの池の水抜き作業が続き、4 時間遅れの池干し作業が始まりました。

水抜きされた池の底樋付近には、大きなフナ・鯉・ブラックバスが腹をだしてたくさん浮かび、その間を小魚（ブルーギル・ブラックバス・小雑魚等）が群れをなして泳ぎ、堤防沿いの岩陰にはザニガニが！いました。

#### 1. 浮かんでいる魚達の生死を分ける作業から。



死んでいるように見えても、取り上げてみると急に動きだし池の水が跳ね上がり大変なことに。頭も顔も泥だらけになりながらの作業は取っても取っても続き・・・大変!!

太子中学校の生徒さん達の参加で作業は急速にスピードアップ。生きている鯉・フナ等の日本古来の魚は急いでカゴに入れ軽トラで運び飛鳥川へ放流。死んでいる大きな魚・小魚・ザニガニに分けて回収。



南河内自然と子どもネットワークの子供たちも加わり、ますます活気好き池が賑やかな雰囲気。



池に入る前に注意を聞いて作業に参加。小さな子ども達も網を持って一生懸命作業を手伝ってくれました。魚の名前もよく知っていてビックリ。



#### 2 選別

バケツの小魚の種類分け作業。目立たないが統計を取るための大切な準備作業。

小魚の種類分け・数の調査は根気のいる大変な仕事、小学生・中学生・高校生みんなで協力して。(\*。^\*)

#### 3 外来魚の駆除

残った水たまりに生きている外来魚駆除するために炭酸カルシウム(運動場に引くラインと同じもの)を散布。水たまりの中はドロドロした状態で散布を進めて行くうちに、動けなくなった人が続出。カゴにつかまり必死の思いで脱出したひと多数。最強の救出道具は太い竹竿。竹竿のお蔭で無事みんな脱出に成功。



水場がないので、泥だらけになった顔や腕・胴長を駒ヶ谷小学校で洗わせて頂き作業終了は薄暗くなってきた 5 時ごろでした。池の底は深い沼状のため進むことができず、水たまり全体に炭酸カルシウムを散布出来なかったことが心配・・・後は、お天気に恵まれることに期待しカワバタモロコの生息環境復活を願いました。



この後、新池はそのままに雨水などが自然に溜まっていくのを待って来年 4 月頃カワバタモロコを放流する予定です。